

	方法	結果	考察
1	リードに杭を撃ち、犬を固定。 飼い主は遠ざかり、無線機から「おすわり」の指示。	「イヤイヤ！離れていかないで！」 といったニュアンスで吠えていた。 落ち着きのない様子だった。 「おすわり」することができない。	飼い主が遠ざかっていくことに、納得がいていない様子だった。 犬に気持ちの切り替えを促す必要がある。
インターバル	散歩用リードを一度リリース。休憩所のテントに見回りに来て、妹や弟たちの様子を確かめていた。		
2	飼い主が、テントから離れたところで無線機を使って呼んでみた。 「パルム、おいで！」	飼い主の所へ、素直に走っていった。	犬が気にしていたことが解決したからか、飼い主の声を聞いて使命感を持って走っていった。 無線機の音声から、自分の名前「パルム」という言葉を聞き分ける事ができていたように思う。
3	テントで補助が犬をホールド（この時ロングリードを使用）し、飼い主は 30 メートルほど離れたテントの死角で待機。 犬からは飼い主の姿が見えない状態で指示を出す。	補助が、リードを離してしまい、犬が飼い主を自分で搜索しにダッシュした。	補助が預かっているときに、「おすわり」をさせずに手を離してしまった。 補助の失敗だから、もう一度。
4	3 と全く同じ内容で、飼い主が「パル、おいでー」と呼ぶ。 補助は合図の後にリードを離す。	呼ばれてから、飼い主の姿を見つけて駆けつけた。	無線機からの指示を聞き分けることができていたように思う。 まぐれかも知れないから、もう一度。
5	飼い主と犬が一緒にいるところから、補助が「パルム、おいでー」と数回呼ぶ。	補助のところへは来ない。	補助との信頼関係がない。 無線機とは関係ない結果と思う。

6	飼い主と補助がテントの中で待機。 犬は、ロングリードの一番長い状態のところで待機。 「パル、、、おいで」と指示。	こちらへやってこない。	実験に飽きてきている。
7	3の実験に似ているが、今度は補助なしでパルムに「おすわり」「待て」をした状態で飼い主が離れていく。 「パル」と、名前を呼ぶ。	飼い主の方へ駆け寄った。	「パル」と呼ばれたことでダッシュした。指示するときの言葉を統一しなかった。
8	ロングリードの一番遠いところに「おすわり」「まて」を無線機で指示しながら、飼い主が姿を見せた状態で遠ざかっていく。「パル、おいで」と言う。	「パル」と名前を呼ばれた時点で、飼い主の方へ駆け寄った。	「おいで」と言われる事を推測して行動しているが、タイミングとしては無線機の音声からの指示で行動できていると思う。
9	8と同じ実験内容。「おすわり」の場所を変えた。 「まてやぞ、まてやぞ」「パルム、ふせー」と指示。	「まてやぞ」と無線機から聞こえる音に反応している。(背中につけた無線機の背中側から声が聞こえていることを認識している) 「ふせ」はできなかったが、飼い主の所へいった。	「まて」から「ふせ」の指示を出すとき、飼い主が「パルム、ふせー」と名前を入れて指示をしたタイミングで駆け出してしまった。 無線機の音声を聞き分けている証拠だ！
10	8と同じ実験内容。 指示の言葉を聞く様子もなかったため、飼い主の判断で指示を「パル、おやつ」などに変更。	指示を無視して、地面の草を齧ったり舐めたりしていた。	実験に飽きてきた様子だったので、ここで終了！ 大好きな「おやつ」に反応しなかった。

十八河原には、たくさんの誘惑があり、キャンパーなどが捨てていったゴミや残飯じみたものが芝生に染み付いて、その匂いを嗅いたり、煙から漂ってくる肉の匂いなどに釣られそうになるところを、集中して訓練に取り組んでいたパルムはすごいと思う。10回も取り組んでくれた。パルムありがとう。